

ゆらぎに寄り添う?

ある医師のお母さんの場合

このACPシリーズを始めて、医療関係者と対話してみると、それぞれの場面で多様な取り組みがなされていることに気づきました。皆さんにもご紹介したいと思います。

93歳のお母さんは、ケア付き有料老人ホームで週一回、ヘルパーサービスを受けながら暮らされています。頭はしっかりされていて、長尾和宏氏の『痛くない死に方』を読んだ、「延命処置はやりません」と書いて、ホームの方に渡されているそうです。

ある医師のお母さんは、腎不全と心不全があり、腎臓内科と循環器内科で通院治療中です。ある時、心不全のために利尿剤が必要になり、服用していたところ腎機能が低下し、「このまま腎機能が落ちると、透析の準備があるでしょう」と腎臓内科の主治医から言われました。診察に付き添っていたその医師の妹さんは、「母は『透析をしたくない』というも言っているので、腎機能を低下させる利尿剤をやめてみてはどうでしょうか?」と、日ごろのお母さんの思い



●ご本人の思いを伝えて、治療内容が変わったのです。その後の経過はどうでしたか? それで、2カ月後に再び、全身浮腫となりました。そこで「腎機能が落ちないように」との配慮で、以前の半量で再開でも、今度はすぐには浮腫が軽減せずに、便秘、微熱、全身倦怠が長引きました。

●そうですか。お母様としては、お辛いですね。

母は、「何とかしてほしい」と言うようになりました。循環器内科の主治医から「新しいタイプの利尿剤を服用開始してはどうか?」と提案がありました。新しい薬を開発するには、入院しなければなりません。

●提案を受け入れて、入院されたんですね。ええ。幸いにかつした医師間の連携で、浮腫がほぼ消えて、体調が回復し、元の生活に戻っています。

ACP (Advance Care Planning)

将来の変化に備え、将来の医療及びケアについて、本人を主体に、そのご家族や近しい人、医療・ケアチームが、繰り返し話し合いを行い、本人による意思決定を支援するプロセスのこと。

母は行きたくないようでしたが、「今の透析がどんなに進歩しているかを勉強しに参加するから、お母さんも一緒にどう?」と誘いました。母もしぶしぶ参加することになりました。

●その後、何かお話しされていますか?

透析の専門看護師さんから「対面でゆっくりと説明していただきまし。利尿剤をやめた時のしんどさを思うと、透析が必要になった時には受け入れよう」という気持ちになっています。

その後の揺らぎに寄り添って

母は、94歳まで衰えたとはいえ、一人でしっかりと生きてきました。「もう十分生きたから楽に死にたい」と思っていますが、「なかなかそう配ですね。」

「こうしていい」と一度決めたからといって、おしまいではないということ、再び学びました。貴重なお話をありがとうございます。(ペンネーム T子&Tiger)

＜お詫ひ＞
同仁会報3月号で感謝状を贈呈させていただいた方の紹介をいたしました。誤って掲載してしまいました。大変申し訳ございません。正しくは左記のとおりです。訂正してお詫びいたします。

- 社会医療法人同仁会
 - 江戸 道子様 亀田 孝則様
 - 当山 清二様 磯田 実様
 - 三谷 信夫様 田崎 貞夫様
 - 泉谷 賢次様 石谷 泰三様
- 社会福祉法人ひまわり会
 - 池田美代子様 大西 進一様

「研修医育成」に皆さまの「声」を

右のQRコードからアンケートへのご協力をお願いします。(耳原総合病院研修委員会)



4月から新しく

専務理事、事務長が就任

左の「理事会報告」にありますように、4月1日付で新しく専務理事、事務長が着任しました。就任のあいさつをご紹介します。

同仁会新専務理事 森 高志



これからの抱負を一言。み 皆で考え、語り合おう。み 魅力ある地域包括ケアの実現へ

総合病院新事務局長兼副専務理事 吉本 和人



地域になくならない急性期病院として、発展させていく重責を心に刻み、地域とともに歩んでいく決意です。

理事会報告

2月理事会〈概要〉

開催日時: 2月24日(木) 午後6時~8時
出席: 理事 20名 監事 3名
◆協議確認事項
・新みみはら鳳クリニック医療構想第三次案の報告
・2022年1月度決算概要
・業所実績の報告

〈主な内容〉

- ◆報告
 - ・拡大常任理事会、各種委員会概要
 - ・健康友の会みみはら、社保・平和のとりくみ報告
 - ・無料低額診療の各事
- ◆協議確認事項
 - ・任務の交代について、承認された。
 - ・理事の交代について、承認された。
 - ・総合病院エリアの無料送迎バスの運行コース、およびダイヤの見直しを提案し、承認された。